

- (1) ログフリッパーではね出された素材は、本装置により長級別、積積カ所別に搬送、選別されます。
- (2) 定置式玉切装置のネックになっている玉切された素材が一定カ所に集積される問題は解消されます。
- (3) しかも、きめ細かな選別による積積ができ、有利販売ができました。
- (4) 本装置は簡単に実用化でき、作業はスムーズに流れ、安全性も高く、作業する人の労働も軽減できます。

チューブ式ペンキ塗付器の考案について

岩村田宮林署岩村田担当区事務所 山 口 昭 次
 “ 事業課土木係 佐々木 三 雄

1. 目 的

最近の国有林野事業は、昭和47年秋以来、新たな森林施業としてきめ細かな施業方針が打ち出され、それに沿った経営がなされています。特に収穫調査は1伐区5ha以内とされ、当署の軽井沢地域では2～3haの小面積分散伐採を行なうこととなったため、伐区の数は増加し、測量、区域設定などの作業が複雑になりました。伐採については全般的に漸伐、間伐が多くなりました。一方境界管理についても、観光開発が国有地界まで進み、従来に増した保全管理が必要になっています。

したがって、これらの区域、調査木、境界をより明確にする必要があります。これまでペンキによる標示がもっとも多く用いられてきましたが、ペンキ缶を持って表示することは何かと不便が多く、かと言ってスプレー式では、揮発性が高いため鮮明度が落ちるうえ、量も少なく経済的にも高くなり、苦しい国有林野事業の台所を考えると、実務的には不向な方法と思います。

そこでペンキ塗り作業が手軽にでき、そして、明瞭に表示する方法はないかと考えたうえ、チューブ式ペンキ塗付器を考案したので発表します。

2 考案の動機

当担当区部内の香坂山国有林は急峻な岩石地が多く、境界巡検の際にはペンキ缶を持って作業をすることには相当の危険が伴います。たまたま足もとの石がぐらつき、アッという間もなくペンキ缶を落とし、ペンキ2㍓を無駄にしたうえ、衣服を真赤に染めてしまい作業を中止せざるを得ない事がありました。そこで何か良い方法はないものかと考えたすえ、私達が毎日使っているチューブ入り歯みがきのチューブにヒントを得、考案したものです。

以下、従来のペンキ缶による作業との比較に重点をおき、考案容器の長所、問題点について発表します。

3. 長 所

(1) 安全である。

従来はペンキ缶とはけを持ち作業していましたが、急斜地、岩石地では両手が自由に使えず、先に述べたとおり危険が伴いましたが、このチューブ式は、重量も軽く、両手も自由に使え、安全であるといえます。また、収穫調査では鉋を使用する必要もなく、この点からも安全性が高いと考えます。重量は2㍓のペンキ缶が2,300g、チューブ式は約600cc入りが700gです。

(2) 経済的である。

ペンキ缶の持ち歩きによる塗付法では、必要以上のペンキを使用したり、転倒によるこぼれなど不経済な点が多かったわけですが、このチューブ式によれば、絞り出し方式により必要最少限の調整が可能で、経済的に勝れています。また皆さんも何回か経験されていると思いますが、一日作業をすると作業衣等が、真赤になってしまいます。チューブ式ではこの点も合わせ、経済的かつ衛生的であります。

(3) 作業が能率的である。

ペンキ缶では歩行、移動の際には、その都度蓋をしなくてはいけない、また急斜地、岩石地では缶を落とすこともあって、作業を断念したことがありました。チューブ式ではこれらの心配はなく、重量も軽く、疲労も少ないなど能率的に作業が行えるわけです。

600ccの容器一杯で、収穫調査で半日、境界巡検及び区域表示などでは、一日は十分使用できます。

(4) 立木等の誤盗伐の防止及び発見

従来、間伐木、択伐木などはビニールテープを使用し標示することもありましたが、これは一冬過ぎれば、落ちてしまったり、伐採搬出時には殆んどとれてしまい、盤台に運搬

された材は無標示となっております。ペンキ使用は標示が明確にでき、チューブ式による手軽さ能率性と相まって盗伐、誤伐の未然防止、発見に有効です。

(5) 身近な廃物使用で製作できる。

蜂密、蒸留水等の不要になったポリ容器、古い靴下など、身近にある廃物を利用し、現金支出も伴わず、簡単にできます。

以上のような長所がありますが、次のような問題点もあります。

4. 問 題 点

(1) ペンキを容器に移す困難性

チューブ式の容器が廃品利用のため、必ずしも形状の一致したものを用意できるとは限りません。注入口の大きなものであれば簡単ですが、注入口の小さなものでは多少の困難性があります。注入にあたっては、じょうごを利用するか、バック入りの牛乳箱を利用すれば確実で簡単です。

(2) ペンキの濃度調整

濃度は濃すぎれば出にくいし、薄いと出過ぎるということがあり、適度な濃度に調整するために配合比等一定の配慮が必要です。

(3) 使用後の洗浄

使用後ははけ、容器の先などシンナーで洗浄する必要がありますが、これはペンキを使用する場合は常につきまとう問題であり、少しずくを出せば良いと思います。

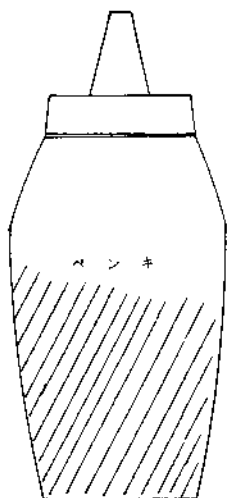
以上、当担当区を中心として試作、利用した結果を整理したわけですが、特にこれを利用した、作業員、職員、他の担当区等の評価として「背たけほどもあるスズ竹の中の収穫調査、地形急峻なか所の境界巡検では、持ち運びも楽で、衣服も汚れず、また足場の確保もでき、安全上、能率上大変便利なものだ」という声が多く、当初の目的である、手軽にしかも簡単に製作使用できるという成果は、十分にあったと思います。

しかし、これは完璧な品物というわけではなく、改善してはけと容器の一体化も検討してみました。試作品の製作について県内のある業者にお問い合わせしたところ「製造は可能ですが、量が多とまらないと無理ですね」という返事でしたので、今後の課題であろうかと思えます。

以上

A チューブ式容器

- 容器はハチミツ、蒸留水などの廃品ポリ容器
- これをB容器入れに入れ持ち歩く



B 容器入れ

